



令和7年度 12月実施【令和7年度 学校評価】

『大池中学校 令和7年度学校評価(教育活動に関する)アンケート』集計結果より
生徒・保護者・教職員の三者比較のデータをもとにした、結果概要を報告いたします。

保護者の皆さまには、12月の三者懇談会期間中にアンケート入力及び記入にご協力いただき、ありがとうございました。「学校評価」は「令和7年度 学校教育ビジョン」に基づき、4月から取り組んできた本校の教育活動を、生徒・保護者・教職員での項目をそれぞれ集計をし考察・分析いたしました。本校の成果と課題を明確にしながら、令和8年度の教育ビジョンにつなげていきます。

【令和7年度 大池中学校教育ビジョン】

学校教育目標 『 心豊かでたくましい実践力のある生徒を育てる 』

この目標を具現化するための「4つの取り組み(重点目標)」をすすめました。

① 確かな学力の定着	② こことからだの健全な育成	③ よりよい未来社会を創造する力の育成	④ 子どもの能力を伸ばす教育と学校づくり
------------	----------------	---------------------	----------------------

生徒・保護者・教職員の皆さまにお願いをしましたアンケート「領域」「診断内容」は以下の通りです。

1	教 育 目 標	1	「学校教育目標・教育ビジョンの適正」について。	
		2	「学校教育目標・教育ビジョンの実現に向けた努力」について。	
2	学 習 面	3	「やる気を育てる授業」について。	
		4	「基礎・基本の定着」について。	
		5	「問題解決能力の向上」について。	
		6	「ICTの活用」について。	
		7	「特別活動・行事の充実」「特別支援教育の充実」について。	
		8	「道徳・人権学習の推進」について。	
		9	「進路指導の充実」「時代の変化に対応する教育の推進」について。	
		10	「適切な評価」について。	
		11	「家庭学習の習慣化」について。	
3	生 活 面	12	「仲間づくり」について。	
		13	「生徒指導の充実」について。	
		14	「生徒理解」について。	
		15	「部活動の充実」について。	
		16	「豊かな人間性の育成」について。	
4	る 家 庭 や 地 域 の 信 頼 に 応 え	17	「保護者や地域の人たちとの連携(開かれた学校づくり・ゲストティーチャー等)」について。	
		18	「保護者や地域の人たちとの連携(大池中学校の指定購入物品は適正な価格)」について。	
		19	「危機管理体制(安全対策)」について。	
		20	「情報発信の努力(通信や懇談会、ホームページ等を通して)」について。	
		21	「情報発信の努力(保護者や地域の人たちの思いや願いを把握し受け止める努力)」について。	
		22	「教職員の対応(接客 誠実な対応等)」について。	
		23	「学校施設・設備の環境整備・有効活用(安心・安全に係る)」について。	

アンケートの選択肢は…

4; よくあてはまる(そう思う) 3; だいたいあてはまる(だいたいそう思う) 2; あまりあてはまらない(あまりそう思わない) 1; あてはまらない(そう思わない) ※ わからないときは、○をつけないでください。
2と1の回答は、学校としての課題として今後の改善が必要なもの。以上のようにアンケート分析を行いました。
別紙にまとめた質問項目別グラフ、主な項目の経年変化(令和6年度との比較)、考察・分析を記しました

令和7年度の『学校評価アンケート結果』から。(領域 診断内容の項目ごとに記しました)

【① 教育目標について】()内の数値は、昨年度令和6年度の数値です。

【令和7年度】学校自己評価と学校アンケートの集計及び考察

領域	診断内容	設問内容	回収率=100.0%	88.3%			86.9%	四日市市立大池中学校 ※()昨年度
				教職員用	生徒用	保護者用		
教育目標	学校教育目標・教育ビジョンの適正化	教 1 大池中では、学校教育目標や重点目標が生徒や地域の実態に即した適切なものになっている。	1 (3.3)	1		1 (3.0)	3.4	3.1
		生 1 大池中の学校教育目標・重点目標は、子どもや地域の実態から見て適切なものになっている。						
	学校教育目標・教育ビジョンの実現に向けた努力	教 2 大池中では、学校教育目標・教育ビジョンの実現に向けた取り組みを十分に行なっている。	2 (3.3)	2 (3.4)	2 (3.0)		3.4 3.5 3.1	昨年度と比較して、教職員、生徒、保護者とともに評価は上がっている。生徒からの評価が高いのは、先生たちが良い学校にしようと努めていることを、実感できているからと思われる。今後は保護者からも信頼される良い学校を目指し、全校の取り組みとして推進する。
		生 2 大池中の先生たちは、この学校をさらに良い学校にしようと努めている。						
		保 2 大池中は、学校教育目標・教育ビジョンの実現に向け、努力している。						

令和8年度学校教育ビジョンをより「具現化」「見える化」したわかりやすく丁寧な取り組みをすすめます。キーワードは、先輩から学べる学校へ 明日も来たいと思える学校へ・・・つなぐ

『豊かな心』を土台とした、「かかわる力・つながる力」、そして3年間を見据えて「生き方につながる力」を育成するために、すべての教育活動の根本に、「かかわることを通して、一人一人の人権が大切にされる『仲間づくり』」を柱として、子どもたちを常に真ん中に置いて、子どもたちを大切にした心の通う教育活動を大切にした取り組みを、子どもたち、保護者の皆さんにもわかりやすく実践していきたいと思います。そして「具現化」「見える化」をすすめます。

【② 学習面について】()内の数値は、昨年度令和6年度の数値です。

教職員用 生徒用 保護者用

領域	診断内容	設問内容	回収率=100.0%	教職員用	生徒用	保護者用	昨年度に比べ、生徒が0.1ポイント上がっている。各教科授業において、授業ごとの『めあて』を提示し、ペア学習やグループ活動を取り入れている。学習用タブレット端末の活用により、自分の意見を様々な方法で表現できるようになった。このことにより、意欲的に取り組む生徒が増加していると考えられる。	
				教職員用	生徒用	保護者用		
学習面	やる気を育てる授業	教 3 大池中では、授業等において学習意欲の向上に努力している。	3 (3.4)	3 (3.3)	3		3.4 3.4	昨年度に比べ、生徒が0.1ポイント上がっている。各教科授業において、授業ごとの『めあて』を提示し、ペア学習やグループ活動を取り入れている。学習用タブレット端末の活用により、自分の意見を様々な方法で表現できるようになった。このことにより、意欲的に取り組む生徒が増加していると考えられる。
		生 3 少人数授業やティームディーチング(先生が2人体制)では、よく理解できる。(うけている人のみ回答)						
		保 3						
	基礎・基本の定着	教 4 大池中では、基礎・基本の内容を定着させるための授業改善を図っている。	4 (3.4)	4 (3.4)	4 (2.8)		3.5 3.4 3.0	昨年度に比べ、教職員・保護者ともに0.1ポイントずつ上がっている。今年度から実施した『補充学習』では各学年ともに20~30名の生徒が参加していた。仲間同士で教え合うことや教師に質問する生徒が多くいた。授業においては、振り返りシートや単元テストなどを取り組むことで自身の学習を振り返ることができた。
		生 4 大池中の先生たちは、授業で基本的な内容をわかりやすく教えている。						
		保 4 大池中では、わかりやすい授業づくりに取り組んでいる。						
	問題解決能力の向上	教 5 大池中では授業等において問題解決学習に準じた授業づくりを適宜行っている。	5 (3.3)	5 (3.4)	5		3.4 3.5	昨年度に比べ、教職員・生徒とともに0.1ポイントずつ上がっている。各教科で課題解決にむけたグループワークなどを多く取り入れている。レポートやパフォーマンス課題などを与え生徒同士で取り組む場面が設定されている。行事においても学級や学年のリーダーを中心企画・運営し、生徒の成長を促していると考えられる。
		生 5 大池中の授業や行事(体育祭・文化祭の話しあいなど)を通して、生活や学習の問題を解決する力がついてきている。						
		保 5						
	ICT機器の活用	教 6 授業ではICT機器(学習用タブレット等)を効果的に活用するよう努めている。	6 (3.5)	6 (3.3)	6 (2.7)		3.4 3.3 2.6	ICT機器のよさを生徒・保護者が実感させられる場面の少なさが1つの原因のように思える。今後の時代を生きていこうと、ICT機器を、その意義・利用価値を含めて活用できる力を身につけさせられるような授業をしていく必要がある。ただの「道具」ではなく「文房具」として、そして、自分の学びを広げる「ツール」として、教職員・生徒・保護者の意識や教育をアップデートしていく必要がある。
		生 6 大池中では授業中に学習用タブレットを積極的に活用している。						
		保 6 子どもたちは家庭学習で学習用タブレットを適切に活用している。						
	特別活動・行事の充実 特別支援教育の充実	教 7 大池中では、体育祭、文化祭、修学旅行や自然教室等の行事に目標があり、有意義に実施している。	7 (3.5)	7 (3.7)	7 (2.9)		3.6 3.7 3.0	今年度は、体育祭は保護者の参観の制限を緩くし、文化祭は保護者の参観の制限をなくした。そのため保護者の数値は高くなっていると思われる。しかし、駐車場の確保などが課題である。実行委員会を開催し、生徒中心に運営などを進めることができたため、教職員と生徒の数値は高くなっている。
		生 7 大池中で行う体育祭、文化祭、修学旅行や自然教室等の行事に楽しく参加している。						
		保 7 大池中の子どもたちは、自分の力を発揮して、学習や様々な活動に意欲的に参加している。						
	道徳・人権学習の推進	教 8 大池中では「心の教育」の充実のため、道徳や人権教育の推進に努力している。	8 (3.3)	8 (3.8)	8 (2.9)		3.3 3.6 3.0	生徒・保護者の設問内容を前年度より変更した。真剣に学習内容に取り組む姿勢を大切に、日々の学校生活で生徒同士がつながり合つ教育活動を継続して行っていく。
		生 8 いじめや差別はどんな理由があってもいけないと思う。→道徳の時間や、人権学習の時間に、真剣に取り組んでいる。						
		保 8 大池中は、いじめや差別などさまざまな課題について、指導をしている。→大池中は「心の教育」の充実のため、道徳や人権教育の推進に努力している。						
	進路指導の充実 時代の変化に対応する教育の推進	教 9 大池中では、生徒一人ひとりの進路保障に向けて、3年間を見通した進路指導や情報提供を行っている。	9 (3.2)	9 (3.5)	9 (3.2)		3.3 3.3 3.1	進路保障に向けて、基礎学力を高めたり、総合的な学習の時間等を通して視野を広げ、なりたい自分が社会に貢献するイメージを高めたりする指導ができるよう引き続き努力する必要がある。職場体験や、高校体験入学などの機会を通して家庭で話合いは進んでいると思われる。進路業務についての学校への依存は、高校のシステムが整っていなくて改善していくと考える。
		生 9 大池中で行われているキャリア学習(職場体験学習、企業などの講演会、進路学習など)を通して、自分の将来や進路についての開心が高くなっている。						
		保 9						

教職員用 生徒用 保護者用

適切な評価	教	10	大池中では、学習における生徒の努力や学力を適切に評価している。	10 (3.4)	10 (3.4)	10 (2.9)	年度初めにシラバスで学習内容と評価についてを明確にし、三者懇談会では各教科の様子が伝わるように努めた。評価の付の方が変わり数年経ったことで、保護者や生徒の理解が進んでいる様子も見られる。授業においては、振り返り記入やレポート課題などを一方的に与えるのではなく、ファイドバック実施し、粘り強く取り組めるような支援をしていくことが必要だと考えられる。	
	生	10	大池中の先生たちは、学習の評価を適切にしている。	3.5	3.5	3.1		
	保	10	大池中は、子どもたちの努力や学力を適切に評価している。					
家庭学習の習慣化	教	11	大池中では、家庭学習の重要さを理解させ、学習習慣の定着に努めている。	11 (3.2)	11 (3.3)	11 (2.6)	教師・生徒の数値は高いが、保護者の数値が低くなっている。タブレットを活用した学習が進むことで保護者から学習の様子が見えづらくなっていると考えられる。また、小テストや単元テストを実施する際に家庭学習と連携させるために宿題を出している教科もある。様々な学習支援ツールがあることを保護者に伝え、より一層学校と家庭が連携し、習慣化させることができると考える。	
	生	11	大池中で出される宿題や家庭学習をきちんとしている。					
	保	11	子どもは、家庭学習の習慣が身についてきている。					

【③ 生活面について】()内の数値は、昨年度令和6年度の数値です。

教職員用 生徒用 保護者用

仲間づくり	教	12	大池中では、学校が生徒の心の居場所になるような学年・学級づくり、部活動に努めている。	12 (3.3)	12 (3.5)	12 (3.2)	教職員・生徒・保護者とともに昨年度の数値を上回った。本年度は体育祭で学年を越えた生徒会種目や総合性的の表彰を新たにし、学年の垣根を越えて応援する姿があった。また、駅伝大会に出場する生徒に向けて全校で横断幕を作成し、一人一人応援コメントを書き入れた。こういったつながりを大事に取り組みの成果が数値に表れたように考えられる。このようつながりをつくる取り組みを各学年、学校でも進めていけるようにする。	
	生	12	大池中の学級や友達との関係は、うまくいっている。	3.5	3.6	3.3		
	保	12	大池中の学級や友達との関係は、良好で、楽しく学校へ行っている。					
生徒指導の充実	教	13	大池中では、生活習慣や社会生活上のルールなど、生活の基本事項の定着を図っている。	13 (3.3)	13 (3.3)	13 (3.0)	数値としてはすべての項目で上昇しているので、満足感があることはわかる。ただ、記述を見ると整理整頓・あいさつの声・指導の一貫性という部分に課題を感じている記述がある。この記述を受け、各クラスでの整理整頓の徹底や、挨拶の重要性、そしてそこを指導する教師の指導力を大切に見直していく必要があるように感じる。生徒の記述の中には、注意をしてほしいという声もあったので、見逃さず指導する教師の視点を大切にしていく必要がある。	
	生	13	大池中では、学校生活のルールが守られている。					
	保	13	大池中では、子どもたちに基本的な生活習慣や社会生活上のルールを教えている。					
生活面 生徒理解	教	14	大池中では、生徒とのふれ合いを大切にして、生徒の心に寄り添う生徒指導に努めている。	14 (3.4)	14 (3.3)	14 (2.8)	昨年度と比べ、保護者の満足度が上がっており、生徒と教師の関わり方、自分の子どもの様子に一定の満足感を得ていることがわかる。行事での姿や部活動の姿から教師との関わりを見て感じてもらった結果のように感じた。その一方で、生徒の数値はわずかではあるが減少している。記述の内容を見ると、教師によってどういう表現が少なからず見受けられるので、教師団・学年団として生徒を見守る指導のあり方を大切にする必要があると感じた。	
	生	14	大池中内に自分の思いや悩み、心配ごと等をわかってくれている先生がいる。					
	保	14	子どもは、大池中の先生と話しやすく、相談できる状況にある。					
部活動の充実	教	15	大池中では、生徒の主体性を重んじた部活動の指導に取り組んでいる。	15 (3.3)	15 (3.5)	15 (3.1)	教職員・生徒・保護者とともに評価は数値として大きな変化ではないものの、全体的に昨年の数値より上回った。地域・外部との連携などが考えられる。土日の活動の在り方や教職員の負担軽減に向けた取り組みが、生徒・保護者の安心感につながった可能性もある。	
	生	15	大池中の部活動は、楽しく充実している。(3年生: 部活動は楽しく充実していた。)	3.5	3.6	3.3		
	保	15	子どもは楽しく大池中の部活動に参加している。(3年生: 子どもは楽しく大池中の部活動に参加していた。)					
豊かな人間性の育成	教	16	大池中では、生徒の個性を生かした指導を行っている。	16 (3.2)	16 (3.2)	16 (2.8)	どの項目も上昇傾向にあり、教師と生徒の関わりへの満足度が感じられる。それは生徒が活動の中で、自信をもち取り組めている証拠のように感じた。ただ記述の中に、生徒の主体性を生かした指導が必要という記述も見受けられたため、教師主導の活動、授業、指導ではなく、生徒主体のものを作りあげる指導が必要だと感じた。	
	生	16	自分にはよいところがあると思う。	3.4	3.2	2.9		
	保	16	大池中では、子どもたちを授業、行事等の中で個性を生かした指導を行っている。					

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査では結果の分析を行い、生徒に返却した。 確かな学力の定着に向けた取り組みとして、学び合いのある授業を推進することができた。各教科において、課題となる点を意識して授業等を行った。「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を心がけ、生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるよう発問、展開の工夫などを行った。英語では、YEFの活用やチームティーチングで授業を行い、より個別に対応した学びに繋がった。数学では少人数クラスに分かれ、自分にあった進度のクラスで落ち着いて学習をすることができた。 ICTの活用をすすめるとともに、スマートフォンやタブレットの使用について講演会やメディアリテラシーの出前授業で安心安全な使用の仕方を考えることができた。題や予定連絡、予定変更連絡についてもICTを活用することで、不登校の生徒や欠席者にも広く学習内容や進捗状況を伝えることができた。 「トライやる」タイムでの自主学習を通して、「自分で考え、学習に取り組む」ことを習慣化することができた。 講演や学活・道徳等を通じて、家庭でのスマートフォンをはじめタブレットの適切な活用、学習に役立つ情報活用の指導を広く進めることができた。 講演会や道徳、日常の指導において、情報機器の安全な使い方について指導を続けたが、家庭でのスマホの使い方では課題が残った。今後も継続して指導を行っていく必要がある。 	

※重点目標の評価数値は、4段階評価で教職員が示した数値です。

重点目標2	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> 人権学習では部落問題学習や統一応募用紙を題材に取り組み、計画的に実施できた。道徳では年間を通して継続して実施できた。授業者ローテーションや学年内での協議を通して、多面的に生徒を理解し、より深い学びにつながる授業づくりを進めた。 家庭科での学習を生かした保育実習では、子どもの発達理解や安全への配慮を実践し、自分の課題や今後伸ばす力を明確にできた。食育の授業において、給食に関わる地域の食材を知り、だしを味わう体験などを行い、給食で賄われるエネルギーや栄養について学んだ。また、食育に関する掲示物も、定期的に更新され、クイズや給食の人気レシピなど生徒の関心を引くものとなっていた。 修学旅行では、広島を訪れ、平和について考えることができた。また、大阪関西万博では、未来技術や国際理解に繋がる学習を行えた。 学校行事では、クラスで体育祭の作戦会議を行い、各クラス士気を高め合っていた。体育祭・文化祭を通して、学級の仲間と協力することの大切さを知り、自分の持てる力を発揮し、取り組むことができた。 朝の読書活動に余裕を持って、落ち着いて取り組むことが習慣化できているが、「読み取る力」や「伝える力」について、様々な場面で課題を感じる。日常生活での言葉のやり取りも大切にする意識を共有する必要がある。 	

【④家庭や地域の信頼に応える学校づくりについて】()内の数値は昨年度令和6年度の数値です

			教職員用	生徒用	保護者用	
保護者や地域の人たちとの連携	教 17	大池中では、「地域に開かれた学校づくり」をめざし、保護者や地域との連携に努めている。	1 7 (3.4)	1 7 (3.1)	1 7 (2.9)	今年度は、保護者は、体育祭で駐車場を確保し、文化祭での参観の制限をなくしたため、保護者の数値が10.2ポイント高くなったと思われる。今後も保護者や地域と連携し教育効果を上げる取り組みを進めていく。
	生 17	大池中での授業や行事の中で、ゲストティーチャーなど地域の方々に話を聞いて、地域への関心が高まった。				
	保 17	大池中での授業参観や行事などは、保護者や地域の人々が学校とつながる機会となっている。	3.7	3.2	3.1	
	教 18	大池中の指定購入物品(制服・ジャージ等)は、適正な価格である。	1 8 (3.2)	1 8	1 8 (2.7)	本校指定購入物品について、早い時期から校内で、協議・共有し、保護者へは学校だより等で連絡していたものの、昨今の価格高騰の影響でいくつかの物品も値上がりをしたため保護者の評価は昨年度より上がっているものの高い数値ではない。今後も適正価格が維持できるよう努めていく。
	生 18					
	保 18	大池中の指定購入物品(制服・ジャージ等)は、適正な価格である。	3.2		2.8	
	教 19	大池中では、安全・防災計画に基づいて日常的な指導がなされており、危機管理体制も整っている。	1 9 (3.3)	1 9 (3.4)	1 9 (3.0)	交通安全指導や計画的な防災訓練を行っているため、教職員、生徒の数値は高くなっていると思われる。しかし、今年度も、自転車通学による交通事故が数件発生している。今後も安全・防災計画の見直しを進め、交通安全教室や防災訓練等の行事、道徳の授業や学活等で危機管理意識を高める取り組みを進める。
	生 19	交通事故や不審者、灾害などから身を守ることができている。				
	保 19	大池中は、生徒が安心して学校生活が送れるように安全に配慮している。	3.3	3.4	3.1	
家庭や地域の信頼に応える学校づくり	教 20	大池中では、各種の通信や懇談会、ホームページ等を通じて保護者への情報発信に努めている。	2 0 (3.6)	2 0 (3.3)	2 0 (3.1)	今年度は、学校ホームページや学校だよりで生徒の様子をより詳しく紹介しているため、教職員・保護者の高評価につながったと思われる。一方で、生徒の評価は下かっており、通信などがすべての保護者にわたっていない可能性もある。今後は、Home&schoolやGoogleクラスマップなどでも、様々な情報を伝達していく、より多くの保護者に学校の様子が伝わるようにしていきたい。
	生 20	通信や学校から配られたものを家の人にはきちんと渡している。				
	保 20	大池中は、学級・学年・学校の通信や懇談会、ホームページなどを通じて、子どもや学校の様子を伝えている。	3.8	3.2	3.3	
	教 21	大池中では、保護者や地域の人たちとの行事などを通して、さまざまな願いを把握する努力をしている。	2 1 (3.4)	2 1	2 1 (2.9)	教職員・保護者とも昨年度より高評価となった。教職員が保護者・地域の願いや思いを対話で受け止め、情報をより広く深く把握しようと努めたことが伺える。今度は、授業公開の回数も増やし、行事でも保護者の参加制限を少なくしたため、数値が高くなったと思われる。今後も保護者や地域の方の願いや思いを少しでも受け止められるように取り組んでいく。
	生 21					
	保 21	大池中は、保護者や地域の人たちの願いや思いを受け止める努力をしている。	3.6		3.1	
	教 22	大池中では、保護者や地域の人たちからの問い合わせや来校者に対して誠実に対応している。	2 2 (3.5)	2 2	2 2 (3.2)	教職員が常に相手のことを考え、思いやりを持った対応を心がけていることが高評価につながっている。今後も教職員のマナー講座等を開設し、言葉遣いをはじめ、より丁寧な対応を心がけ、信頼される学校となるよう努める。
	生 22					
	保 22	大池中(大池中の教職員)は、電話での問い合わせや訪問客などに誠実に対応している。	3.6		3.2	
学校施設・設備の環境整備・有効活用	教 23	大池中の施設や設備は、学習環境として、快適・安全に整備され、有效地に活用されている。	2 3 (3.0)	2 3 (3.3)	2 3 (3.1)	校舎や設備は古いか、生徒たちは掃除を丁寧に行い、物を大切に扱うため良い環境を維持することができている。また、破損等は直ぐに修繕を行なうなど整備に努めていることが生徒の高評価につながっている。今年度は、生徒会でアンケートをとっており、生徒の意見を取り入れ、より快適・安全に学校生活が送れるよう施設設備の充実を心がける。
	生 23	大池中の施設や設備は、快適・安全に整備・修理され、勉強や生徒会・委員会活動などがやりやすい。				
	保 23	大池中では、子どもたちが快適・安全に学校生活がおくれるように、施設や設備が整備・修理されている。	3.2	3.3	3.1	

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

※重点目標の評価数値は4段階評価で教職員が示した数値です

重点目標3	よりよい未来社会を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートの作成やキャリア教育での学び、そして、職場体験学習やマナー講座での社会的スキルの習得に継続して取り組んだ。これらの活動を通して、自分の進路を主体的に考え、選択することの意義を理解することができた。また、自分の強みや課題を見つめ直す機会となり、将来に向けて必要な力を意識して行動する姿勢が身についてきたと感じている。 ・模擬裁判の活動では、与えられた役割に応じて資料を読み取り、事実関係を整理し、自分の考えを論理的にまとめる力を養うことができた。意見の異なる仲間と議論しながら結論を導く過程を通して、相手の立場を理解しながら自分の主張を明確に伝える姿勢が身についた。 ・自然教室などの各行事を通じて、段階を経ながらリーダーを中心に自主的に活動する土台作りを行った。 ・地域の貴重な御池沼沢の環境保全活動や、事前学習などを通して、資源をいかした活動を行い生徒も意欲的に参加する姿があった。 	
重点目標4	子どもの能力を伸ばす教育と学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・支援ファイルを活用し、保護者の願いを聴きとり、教職員への情報共有をはかることができた。ただ非常勤の先生への情報共有は難しく、また、記載内容については保護者の思いに十分配慮しながら、慎重に表現する必要があった。 ・毎週の学年会や生徒指導委員会を通して気になる生徒の把握に努め、対策を考え共有することができた。さらに日ごろから気になる生徒宅へ家庭訪問していただいたり力になっていただいている。 ・詳細な情報共有により、生徒の状況把握や今後の支援について検討することができた。校内ふれあい教室の担当が常駐しているため、生徒それぞれのニーズに合った時間に登校することができている。校内ふれあい教室に継続的に通級することでたくさんの教員や高校生などと交流することができた。 ・各校園の取り組みを共有することで指導につなげることができた。 ・職場体験学習として、たくさんの経営者や企業の方から講演をいただき、さまざま職業について考える機会があった。 ・通信等で、生徒が頑張る姿をたくさん紹介できた。 ・部活動の成果に限らず、学校だよりや学年通信などで多くの生徒の「頑張る姿」や「模範的な行動」について紹介することができた。 ・体育祭では、今年から縦割りの取り組みを行ったことで、学年を超えてつながり、応援しあうことができた。 ・教育相談を行うことや、職員が生徒指導において共通の指導を行うことを意識することで、学年として落ち着いた学校生活につながった。 	

2 改善方針

- ・ICTの活用については、これまでの実践を積み重ねる中で効果的に取り組むことができた。一方で、更新時期が近づきバッテリー切れなどの課題も経験し、ICTに依存しすぎることのリスクも実感した。今後も、新しいタブレット環境を踏まえつつ、より継続的で有効な活用方法を探っていきたい。
- ・学校外での学びや体験学習の機会が増える中で、授業だけでは得られない実践的な学びの重要性を改めて感じた。その一方で、こうした活動を充実させるためには、授業時数をより柔軟に運用し、学習計画全体を見通した調整が必要であると実感した。今後も体験的な学びを効果的に取り入れられるよう、学年や学校全体での工夫が求められる。
- ・講演会や道徳、日常の指導において、情報機器の安全な使い方について指導を続けたが、家庭でのスマートの使い方では課題が残った。今後も継続して指導を行っていく必要がある。

[令和7年度の学校評価アンケート結果から、令和8年度に向けて学校教育ビジョンで大切にしたいこと…]

- ・自己肯定感を高め、子どもたちの学ぶ意欲を向上させる『学び合う授業づくり』を進め、誰も一人にしない授業づくりを大切にする。
- ・「指導と評価の一体化」をすすめ、観点別評価の見える化を大切に日常的な授業改善をすすめ、丁寧でわかりやすい授業づくりを大切にする。
- ・「仲間づくり」を土台とした授業をすすめる中で、「安心して自分の思いを出せる授業づくり」をすすめる。
- ・大池中学校が大切にしている人権学習をすすめ、教職員は「日々の教育活動が人権教育につながる」という意識と姿勢で子どもたちに関わり、「子どもたちがいじめや差別の加害者にも、被害者にもならない」人権尊重の風土を大切にする。そして、隣の人のしんどさやつらい思いに気づくことができ、寄り添うことができるよう「人権感覚を磨く」ためにも、子どもたちと教職員が一緒になって人権について学ぶことを大切にする。
- ・一人一人が安心して自分の思いを伝えることができる居場所づくり・認め合い、支え合える環境づくりを大切にする。
- ・大池中学校の子どもたちの強みでもある「自己肯定感を高め、やる気を向上させる手立て」を教科授業だけでなく、行事等、教育活動全般においても『できる』・『できた』・『うれしい』などという意識を高める取り組みを大切にする。